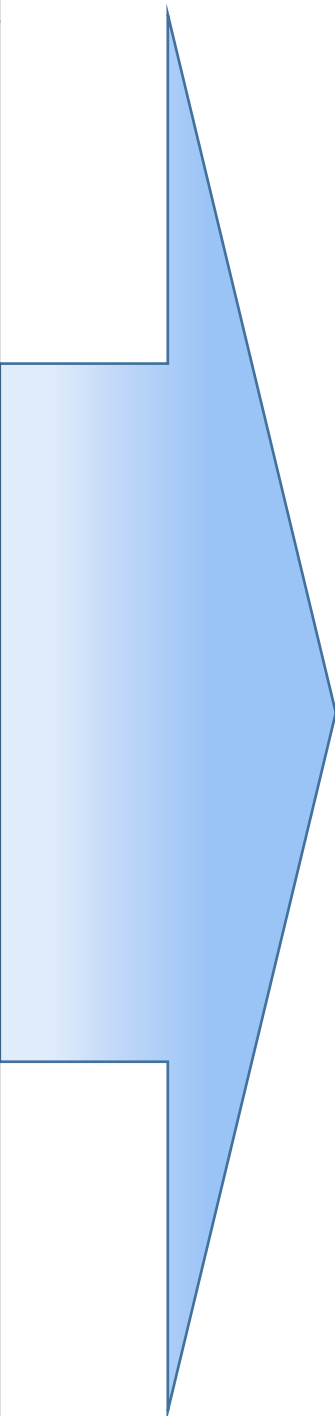


多治見市地域公共交通計画の策定について

現在の計画 計画期間 令和2年度～令和5年度

令和5年度策定中の計画 計画期間令和6年度～令和9年度

多治見市地域公共交通網形成計画の基本的な考え方	課 題
1 計画の基本方針 自家用車に頼らなくても移動できる公共交通体系づくり	・アンケート調査の結果、事業者ヒアリング等を踏まえ課題を整理
【多治見市が目指す公共交通体系】 ●中心拠点及び地域拠点に都市機能を集約するまちづくりを目指し、それら拠点間をつなぐ公共交通ネットワークを維持します。(ネットワーク型コンパクトシティの実現) ●目指す公共交通体系は、地域拠点と中心拠点をつなぎ主に通勤・通学の移動を担う鉄道及び基幹交通(路線バス)、地域主体で地域拠点内や拠点間の移動手段を担う「地域内交通」、中心拠点内の快適な移動手段を担う「コミュニティバス(中心市街地線)」で構成します。	
2 計画の目標 基本方針の実現に向け、本計画の4つの目標を以下のように定めます。 ●関係者が協力し、利用促進や意識啓発活動に取り組むことで、市民一人あたりの公共交通の利用の増加を目指します。	
目 標 1 都市間や地域拠点と中心拠点をつなぐ基幹交通づくり ●他都市との広域移動手段としてＪＲ中央線やＪＲ太多線を運行します。 ●地域拠点からの通勤・通学手段として路線バスの利便性を確保・維持します。 ●高齢になっても地域拠点から中心拠点まで気軽におでかけできるよう、路線バスの利便性を確保・維持します。	
目 標 2 郊外地域と各拠点をつなぐ地域内交通づくり ●日常的な生活において、地域拠点から身近な施設へ気軽におでかけできるよう、地域内交通の充実を図ります。	
目 標 3 中心拠点内を快適に移動できる公共交通づくり ●中心拠点内に立地する公共施設、商業施設等へ快適に移動できるようききょうバスを運行します。 ●中心拠点において市民だけでなく、観光客にとっても移動しやすい交通環境を提供します。	
目 標 4 市民・交通事業者・行政の協働による公共交通の利用促進 ●関係者が協力し、利用促進や意識啓発活動に取り組むことで、市民一人あたりの公共交通の利用の増加を目指します。	



多治見市地域公共交通計画の基本的な考え方
1 計画の基本方針 自家用車に頼らなくても移動できる公共交通体系づくり
【多治見市が目指す公共交通体系】 ●中心拠点及び地域拠点に都市機能を集約するまちづくりを目指し、それら拠点間をつなぐ公共交通ネットワークを維持します。(ネットワーク型コンパクトシティの実現) ●目指す公共交通体系は、 地域拠点と中心拠点をつなぎ主に通勤・通学の移動を担う鉄道及び基幹交通(路線バス)、地域主体で地域拠点内や拠点間の移動手段を担う「地域内交通」、中心拠点内の快適な移動手段を担う「コミュニティバス(中心市街地線)」で構成します。
2 計画の目標 基本方針の実現に向け、本計画の4つの目標を以下のように定めます。 ●関係者が協力し、利用促進や意識啓発活動に取り組むことで、市民一人あたりの公共交通の利用の増加を目指します。
目 標 1 都市間や地域拠点と中心拠点をつなぐ基幹交通づくり ●他都市との広域移動手段としてＪＲ中央線やＪＲ太多線を運行します。 ●地域拠点からの通勤・通学手段として路線バスの利便性を確保・維持します。 ●高齢になっても地域拠点から中心拠点まで気軽におでかけできるよう、路線バスの利便性を確保・維持します。
目 標 2 郊外地域と各拠点をつなぐ地域内交通づくり ●日常的な生活において、地域拠点から身近な施設へ気軽におでかけできるよう、地域内交通の充実を図ります。
目 標 3 中心拠点内を快適に移動できる公共交通づくり ●中心拠点内に立地する公共施設、商業施設等へ快適に移動できるようききょうバスを運行します。 ●中心拠点において市民だけでなく、観光客にとっても移動しやすい交通環境を提供します。
目 標 4 市民・交通事業者・行政の協働による公共交通の利用促進 ●関係者が協力し、利用促進や意識啓発活動に取り組むことで、市民一人あたりの公共交通の利用の増加を目指します。